成功への道しるべ

英語の学び方

高田 誠 著

THE BOOK YOU CAN SURELY MASTER ENGLISH WITH

Eikyo

成功への道しるべ

英語の学び方

高田誠著

THE BOOK
YOU CAN SURELY MASTER
ENGLISH WITH

財団法人日本英語教育協会

著 者: 高田　誠（たかた・まこと）
慶應義塾大学文学部英文科卒
慶應義塾外国語学校フランス語科卒
JPS アカデミー会長
慶應義塾維持会会員
財団法人日本英文学会会員

（訳書）
ビアジオ・レモンティ:「最新ヘア・カッティング技法」（日本美容新報社）

成功への道しるべ **英語の学び方**

初版印刷　1990年7月1日
初版発行　1990年7月10日
著　者　高田　誠
発行人　赤尾一夫
編集人　松林三郎
印刷所　日新印刷株式会社

発行所　財団法人 日本英語教育協会
〒162 東京都新宿区横寺町
電　話　(03) 266—6533（編集）
(03) 266—6506（販売）

© 高田 誠 1990
（許可なしに転載，複製することを禁じます）
Printed in Japan（三興印刷・市川製本）
ISBN 4－8177－1523－5
●落丁・乱丁・不良本はお取り替えします。
当協会に直接お申し出ください。

はしがき

言葉というものは読むこと，書くこと，聞くこと，話すことの四つから成り立っている。そしてこの四つのすべてを完全にこなせなくては，いわゆる「できる人」とはいえない。ところで，街には英語学校が乱立し，英語カセットテープの派手な宣伝が連日のように新聞紙上を賑わし，山のように積まれた英語参考書が書店で売られている。一方，日本では，中学校三年間，高校三年間とほとんどの人が少なくとも六年間は英語を学び，人によっては更に大学の教養課程での二年を含めれば，八年間も英語を勉強してきたということになる。ところが，日本人が特別に英語ができるようになったというような話は一向に聞かない。それどころか近頃こんな話も聞いた。

ある大手の電気会社で，英語のできる人がいなくて困っていた。そしてようやく待ちに待った人の入社が決まった。その人は，ある国立大学の経済学部を優秀な成績で卒業した新卒生で，その課の社員全員が一日千秋の思いでその人の来るのを待っていた。だからその人が来たらすぐにやってもらおうということで，沢山の外電や海外からの手紙，更にそれに対するこちら側の返信の英訳など，片付けて欲しい仕事を机上に山積みさせていた。そして待ちに待ったその人が入社して，社員一同ほっとしたというわけだ。

だがそれらの文書を一べつして，当人は自分にはできないといいだした。よく聞けば，商業通信文などいままで本格的にやったことはないし，英文の文書の作成なども馴れていない，また外電や外国からの文書を翻訳するにしても，辞書で調べながらだから，これだけの山のような書類では何日かかるかわからないという。しかし，その課の人たちにしてみれば，国立大学の経済学部を優秀な成績で卒業した人とあれば，これくらいの仕事はいとも簡単にやってのけるだろうと考えるのは当然であった。そして更に困ったことが起きた。それは時おり会社を訪問してくる外人客のバイヤーに対しても，その人は通訳どころか，しどろもどろになって，何の対応もできない状態であった。結局この人は

その課全員の期待にこたえられず，本人もいづらくなって配転を願い出たという。ではなぜこのようなことが起こるのであろうか。

日本の英語教育はどこに欠陥があるのだろうか。よくこういう人がいる。日本人は英語の読み・書きは十分できる，不十分なのは会話の能力だけなのだから，これからは英会話に力を入れればいい，それで完全だ，と。本当にそうだろうか。

この本では，どうしたら英語ができるようになるのか，どこに今までの欠陥があるのかを，もっとも公平無私な立場から考えていく。

どんな場合でもそうだが，これ一発ですべてOKというようなものはない。たとえば病気になってもこの薬さえ飲めば，あとは何をしてもいいなどということはない。どんな特効薬を飲んだとしても最終的には人間の自然の治癒能力に頼るのだから，たとえば食事にも注意を払い，十分の睡眠をとり，病状によっては安静にしている等，総合的な養生をしなくては病気は治らない。

しかも英語の勉強にはこの特効薬というものはないのだから，これさえやればあとはいらないなどということはない。

私がこの本を書こうとした動機は，私自身の二十年以上にわたる英語学校経営と，沢山の方々を実際に教えてきた経験から，私なりに得た英語教育についての結論をこのへんでまとめてみたいと考えたからである。私の目からみると，随分と無駄な，あるいは無駄に近いような努力をしている方々が沢山いるように思われる。

実際，優秀な諸君，秀才の諸君だったら，人にあれこれいわれなくても自分で採るべき方法を考え，学ぶべき教材を選んで，自分の力で切りひらいてゆくはずだし，それがもし受験生であれば，どこの大学にも立派に合格するであろう。だからそのような人たちは，この本を読む必要は全くない。

しかしこういう人たちは全体の数からすれば極く僅かであろうし，多くの場合は，不得意なものをどうすれば得意にできるか，日夜苦しんでいるのが実状と思われる。だからここで以下に述べることは，私自身が身をもって体験した勉強法を学生諸君，一般社会人，更には英語などにいままで全く興味のなかっ

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

たような方々にも知っていただき，お役に立たせたいと考えて示した具体的な，また偽りのない方法なのである。

いまはアルバイト学生といえば，アルバイトで得たお金をレジャーに使うなど優雅なものだが，私は昔のいわゆる「苦学生」で，自分で商売をしながらツギのあたった制服を着て大学へ通った。だから，級友の金持ち連中はいつも自分にはうらやましい存在だった。慶応といえば金持ち学生といったイメージが強かったが，自分には縁のないことであった。

だからここに述べていることは，お金がなくても，留学などできなくても，何万円もするカセット・テープレコーダーなど買えなくても，立派に英語ができるようになる，その真実をはっきりと具体的に示しており，自分の貧乏生活が生み出した結論ともいうべきものなのである。

私は家がどんなに貧しくても必死で努力を続け，困難とたたかい，勉強に打ちこむような諸君が一番好きだ。だからこの本のあとのほうで詳しく述べているが，小学校しか卒業していなくても，立派な語学者や，社会のトップクラスになったような方々を私は本当に尊敬する。

「英語の学び方」などということは誰でも考えそうで，またこうしたものは世間にいくらでもありそうである。私もそうしたことから自分なりに探してみたのだが，本当に学生諸君あるいは一般大衆の立場から書かれたようなものは少ない。そして著者は大抵学者とか，海外生活を長くした人とか，特別英語を使うような仕事にたずさわってきたような特殊な方々である。だからそうした方々の本を読んでも，内容よりも先に自分たちとは違う世界の人，と感じてしまう。けれども学生諸君，あるいは一般社会人の90%以上は特別に留学や海外生活のチャンスもなく，ただ中学，高校と平凡に進んでいく人たちであろう。

だが英語は義務教育から課されており，すべてに必要なもので，普通の場合，自分のまわりのものを利用して勉強していくより方法がない。

英語の大家，達人の先生のお話も，もちろん参考になる。けれども高い壇上からの講義ばかりでなくて，本当に読者が知りたいのは，客席におりてきて話す，現在までに到達した長い道のりの苦労話ではないか。どんなに立派な先生

でも日本人であれば英語を喋りながら生まれてきたわけではないから，失礼だが，失敗の連続もあったことと思われる。

外国語を勉強し，それに上達していくとしても，その言葉が全く使われていない状態，環境で，自分の力で途を切りひらき，努力を重ねていくことで積みあげたものこそ本当に価値があり，それこそ努力の結晶といえる。同じ財産でも無一文から粒々辛苦して築きあげたものは，値打ちがあるのと似ている。アメリカにいたことがあるから英語が話せるというのは努力の結晶とはいえない。この本は，外国語にはなんの関係もない環境から，必死で努力している私と同じような立場の方々のために勉強法を一緒に考える本である。皆さんとともに自分で勉強法を見つけていくための本である。しかもお金も使わず，何の道具だてもせずにである。特別に語学などに才能もない私は，いままで何回となく語学の習得に失敗し，絶望し，途中で投げ出したくなった。これはちょうど何回も禁煙に失敗して，煙草を吸い出し，後悔するのに似ている。意志の弱い私もその例にもれず，完全禁煙を達成するのに二年もかかった。

だが語学に絶望するたびに，私は立派な先生方の直接，間接の励ましによって溺れかかっているのを助けられた。

私はこの本を信念と自信をもって書いた。だが，この本は自分の力でどんどん泳げる方々には用はない。自分も助けていただいたのだから，自分でいうのはおこがましいが，この本は溺れかかっている諸君，語学に絶望している諸君に投げる浮輪のようなものでありたい。そうした方々に少しでも役立てるようなものになったら，筆者にとってこれ以上の喜びはない。

1990年 6月

著　　者

目　次

はしがき ……1

第一章　はじめに ……11

読み書きは一流だが ……13
会話の巧みな人 ……13
本当にできる人とは ……15
上達の秘密は何だろうか ……16

第二章　読み・書き・会話の並行こそ基本 ……21

基本は読み・書きにある ……23
外国語の勉強はなぜ難しいか ……25
今後の学校教育の問題 ……29

第三章　文法の必要性 ……31

文法はなぜ必要なのだろうか ……33
母国語と外国語 ……34
二か国語を母国語として学べるか ……38
言語干渉と母国語 ……40
文法は避けて通れない ……43
英文法と国文法 ……45
学校における文法の授業 ……50

第四章　英語教科書・参考書 ……53

中一からの総復習が私を救った ……55
英文法の試験でも成功 ……56

ベテランの先生方が中一から始める ……56
英語教科書の復習こそ基本 ……58
どんな人ができるようになるのだろうか ……60
日本人の総体的な英語力 ……63
日本の英語教科書 ……64
失敗は成功の元・不幸は幸福の元 ……67

第五章　単語はこのようにして増やす ……71

単語はすべての基本 ……73
単語を覚えるコツは? ……75
単語はセンテンスで覚える ……78
コンサイス英英辞典から ……79

第六章　発　音 ……85

どうしたら発音がよくなるか ……87
発音記号 ……88
子音の発音 ……89
日本語式の発音は通じるか ……89
英語の発音はなぜ難しいか ……90
外国人の英語 ……92
何より自信が大切 ……93
外国語としての英語の発音 ……95

第七章　会話の上達法 ……99

スピーキングの訓練はここから ……101
スピーキングはこうして訓練する ……102
ヒアリング強化法 ……106
暗記から応用へ ……108

第八章　英会話カセット・テープ ……111

カセット・テープの活用 ……113
どんなカセット・テープを選んだらよいか ……114
まずヒアリングが先 ……117

第九章　映画（ビデオ）の活用法 ……119

映画は最良の教師 ……130
ビデオを使った勉強法 ……131
映画の字幕 ……133
実際の画面から ……134
英語字幕の出るビデオ ……143
NHK テレビ英語会話と高等学校講座 ……144

第十章　英字新聞 ……147

英字新聞を読み始める ……149
新聞は一部だけ買う ……149
独学で成功された先生方 ……152
The Japan Times から ……154
時事英語における重要略語 ……169

第十一章　原　書 ……175

原書への取り組み ……180
最初はサマセット・モームから始めた ……182
私の読書遍歴 ……184
戦後のアメリカ文学 ……189
劇作家と詩人 ……190
何を読んだらよいか ……191

第十二章　英語学校における英会話レッスン ……195

ヒアリングとスピーキング ……197
英会話レッスンを受けるための準備 ……197
英会話学校と外国人講師 ……199
会話は初めに習う発音が大事 ……201
私の英会話との出会い ……203
スピーキングの訓練 ……206
失敗や間違いを恐れない ……211
受験生と英会話 ……215

第十三章　大学受験英語 ……217

勉強は自分でするもの ……220
出題傾向 ……221
英語・日本語の構造的相違 ……224
受験生を待ち構える意外な落し穴 ……225
解答法の実際 ……227
英作文 ……244
国際基督教大学教養学部英語入試問題 ……246

第十四章　英語検定試験 ……269

どうすれば英検に合格できるか ……271
検定試験の種類 ……272
英検の歴史とその内容 ……272
英検合格への道 ……274
各級別の合格法
3級 ……275
2級 ……277

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

2級—二次試験 ……284
1級—英語スペシャリストへの道 ……286
1級のレベルはどんなものか ……287

第十五章　英語と米語 ……289

イギリス人とアメリカ人の発音 ……291
英語と米語の方言 ……292
英語と米語の違い ……294
発音について ……294
(同一の語を異なって発音するもの) ……294
(発音の省略) ……295
文法について ……296
(have, shall, will) ……296
(may と can) ……297
(must と have to) ……297
(単純形副詞) ……297
(現在完了) ……297
(got, gotten) ……298
(電話用語) ……298
(仮定法現在) ……298
(仮定法過去) ……298
(二重否定) ……299
(How come ～?) ……299
(every → each) ……299
(much too much) ……299
(Why don't you ～?) ……300
(quite a little) ……300
(You are welcome.) ……300
(Check, please.) ……300
(I think ～) ……300
(関係代名詞の who) ……301
(副詞の最上級) ……301

（前置詞の through）……301
（日付の読み方）……301
（省略）……301
語彙について……302
綴りについて……305
米語の口語と俗語……306

第十六章　留　学……311

留学したある女性の話……315
留学のためには準備が必要……316
留学は将来のことも考えて……318
OL の留学……320

第十七章　英語プロへの道……325

英語を使う仕事……329
プロとアマの違い……331
どうしたらプロになれるか……331
チャンスをつかむのはふだんの努力……333
第二，第三外国語も必要……335

第十八章　生涯学習としての英語……337

人間の生きがい……339
本を持っている人は素晴らしく見える……340
勉強を楽しくさせる……341
世間の人は見ている……343

第十九章　おわりに……345

（付　録）**あなたの基礎英語力を知る・テスト問題 60 問**……349

第一章　はじめに

私は過去何年もの間，生徒から「英語ができるようになりたい」という言葉を数限りなく聞いてきた。しかし，「英語ができる」とは，いったいどのような状態を指すのだろうか。私の考えでは，これは大まかにいって三つくらいに大別できると思う。

◇読み・書きは一流だが

一つ目は，読み・書きが非常によくでき，かなり高度な論文も読みこなし，それに関しての質問にも大抵答えられるような学力の持ち主，だから読み・書きに関してだけいえば，どこの大学にも合格しうるような力がある人，これも一応「英語ができる」人の部類にはいるかもしれない。しかし，英語を聞いたり話したりするということになると，ほとんどが中学生などと変わらないような状態といった人たちがいる。十年あまりロンドンに滞在し外国商社に勤務している，ある日本女性から聞いた話にこんなのがある。彼女の会社に新しく日本人が入社してきた。彼は日本の難関大学を卒業したエリートで，その語学力も買われ，皆の期待を担って入ってきたのだが，彼の話す英語はまるで英語の論文集を聞かされているみたいで，周囲の人もおかしさをかくすのに苦労しているのがよく分かったという。今まで英語をほとんど話したことのない人たちが，いきなり英語を話すと，こういった状態になりかねない。つまり，これは聞くこと，話すことの訓練が全くされていない結果である。

しかしあとで詳しく述べるけれども，こういう人の場合は，英会話に上達するのは比較的簡単である。それは語彙(い)も豊富であり，文法もしっかりしていて，要するに英語の基礎が既にできあがっているので，あとはただ会話の能力さえつければよいからである。

むしろ難問は次に述べるような人の場合である。

◇会話の巧みな人

二つ目は，これと全く正反対に，読み・書きはあまり得意でなく，英字新聞はおろか，中学の教科書も完全に読めないが，いったん外国人の前などに出る

と得意気にしゃべりまくろうとする人である。このタイプには，いわゆるいま流行の「短期留学」などから帰ってきた人たちなどに多い。話す英語も大抵ブロークン・イングリッシュで，英語が本当によくわかる人が聞けば，首をかしげるような場合も多いのだが，知らない人の目には，英語をペラペラと自由自在にこなす，「すばらしく英語のできる人」と見えるかもしれない。

旅行社の「留学」の宣伝につられて，猫も杓子も海外へと飛びだしていくので，現在この種の人が激増してどうしようもない状態にある。会話ができるといって自慢するけれども，その語彙力は貧弱で，ちょっとこみいった話となれば相手の言うことはわからず，もちろん自分の意図するところも説明できない。さらに文法力がないから間違ったことも平気で話すし，その間違いにさえ気がついていない。

こうした人たちは実際に日本の社会でも使い物にはならない。通訳としては使えないし，読み書きはめちゃくちゃであるから文書の作成もできない。

いまの日本では英語が話せるなどというのは，ちっとも自慢にならない。英語が完全にできて，しかもそれ以外になにができるか，どんな仕事ができるかが問題で，世の中は変わってきているのである。

よく外国人と話して話が通じると鬼の首でもとったように自慢する人がいるけれども，日本にいる外国人は日本人式英語発音を聞きとるのに慣れてしまっており，さらにこちらの言うことに耳を澄ませて聞きとろうとし，わからぬ部分は推量し，こちら側でも手ぶり身ぶりまで使って話すのだから，話が通じるのは当り前で，こんな状態は英会話をしているとはいえず，ただこちらのいいたいことが何とか相手に通じたというだけである。

このような人たちは，前に述べたような読み・書きはできるが，会話が得意でないといった人に比べると，何倍も大変である。こういう人たちは英語の基礎からもう一度完全にやり直す必要があり，さもなければ何年たっても同じ状態が続くことになる。そして自分では英語ができると思いこんでいるだけに，人のいうことが素直に耳に入ってこないということもあり，かえって時間がかかることがある。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com